

名物分会 ファイナル 6



模擬店で地域にアピール

墨田支部立花第一分会

【墨田・測量・柳堀秀夫 宅アテや手すりの取付ボラ通信員】立花第一分会は、墨田区立花1丁目3丁目を活動地域として、所属人数が150人あまりと墨田支部のなかでは一番小さい分会ですが、みんな元気に活動しています。地域では、すみだ分会への感謝と東京土建墨田支部

団地まつりに協力

「女性の会」も防災組織に

健康診断では多くの組合員・家族に受診するよう呼びかけています。その結果、2013年度は特定健診受診率第1位(59.8%)となりの東京土建国保組合から表彰されました。また、分会「女性の会」の皆さんは、墨田支部自主防災組織ハンマーズにも登録して防災訓練やAED心肺蘇生法訓練にも積極的に参加する頼もしいメンバーです。



潮干狩りなどの分会レクで仲間との交流を深める

現在の分会内での課題は、役員の高齢化と大工さんなどの職人さんが少ないことです。すみだ分会住宅デーやすみだ住宅まつりへの参加協力者を集めるのに毎年苦労していますが、「みんな元気でガンバル」立一分会です。

2019年度国保補助獲得のため 厚生労働省への ハガキ要請に協力

私たちの命綱である東京土建国保は、主に皆さんからの保険料と国・都からの補助金で運営されています。収入額(繰越金等除く)の約半分を占める補助金を確保し、保険料の大幅引上げを抑え、国保組合財政の安定運営を守るためにも、一人一シートの記入にご協力ください。

補助金確保には 運動が不可欠

【本部社会保障対策部長】国庫補助の根拠法である国民健康保険法では、区市町村国保には国の交付金が義務付けられている一方で、国保組合への補助は「できる」として国の任意とされています。東京都から補助金も条例で定められたものではありません。こうした中で補助金を例年どおり確保していくために、私たちは、厚労省、財務省、東京都に対するハガキ要請、省庁交渉、国会議員や都議会議員への訪問要請、予算要求集会などの取り組みを行っています。

6～7月は厚 労省に向けて

この結果、2018年度も、補助金計算の基準となる「一人当たり医療費」が医療費の伸びを見込んで国・東京都ともに増額され、これまでの水準を確保することができました。

土建国保は命綱

運動で勝ち取った制度

【本部社会保障対策部長・石村英明記】組合員、ご家族の皆さん、日ごろの組合運動に対するご理解・ご協力、誠にありがとうございます。東京土建社会保障対策部の規定に基づき、国が責任をもって社会保障制度を充実させることを求める要求運動に日々取り組んでいます。その最重点課題として、東京土建国保の育成・強化を求める活動を行っています。

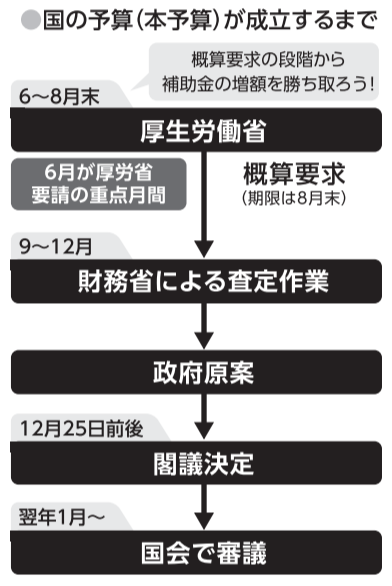
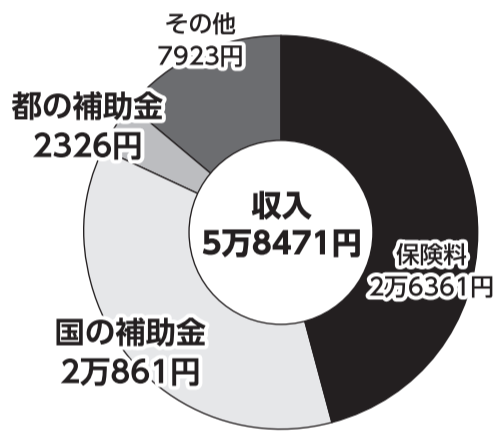


石村さん

北支部は昨年11月28日、岡村書記長を先頭に、地元青木愛参議院議員(自由党)と参議院議員会館で懇談。建設産業の実情、低賃金の実態を報告し、建設国保予算獲得の必要性を話し合いました。青木議員は「建設国保予算確保の重要性がわかりました」と回答、すぐに財務省主計局に、厚生労働省からの概算要求額を確保するよう要請に行ってくださいとしています。

2日の懇談会など、緊密な意見交換の場を設けることとしています。議員からの「これからも建設産業改善の力になれるように頑張る」との力強い言葉に支部の仲間は大いに力づけられています。「今年度は厚労省・財務省への要請に同席をお願いします」と、意気高い北支部です。

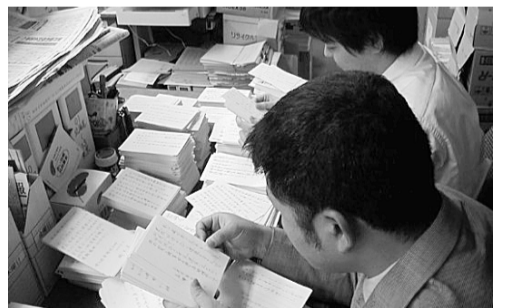
東京土建国保の2018年度予算 (1世帯あたりの月額)



青木議員(右)と岡村書記長

地元議員と意見交換 北 省庁への要請に同席を

今後、東京都向けハガキは8～9月、財務省ハガキは11～12月に取り組みます。皆さんのご協力をお願いします。



ハガキを1枚1枚読む東京都の職員

私達の声は大きな力 皆の熱い思いを伝えよう

私たちが書き上げた要請ハガキは、厚労省や東京都の職員が、1枚1枚、内容を確認します。夏と秋で毎年2回に分かれて行なわれている厚生労働省および東京都との交渉の中では、国保課長が届いたハガキ数枚を読み上げ、「皆さんのいのちの綱、建設国保への熱い思いが伝わってくる」「予算獲得に向けて頑張る」との言葉をいただきます。このように中央省庁に直接私たちの声を届けるハガキ要請は、補助金確保の大きな力となっています。